

情報掲示板

ファミリー会員新規入会・更新御礼

ファミリー団体入会・更新御礼

寄付御礼

いぶきファミリー賛助会員へのご新規加入・更新のお願い

年会費 個人:1口 2,000円 団体:1口 10,000円

- ご入金
- ①クレジットカード (更新手続きがいきません)
<http://kessai.canpan.info/org/ibuki/>
 - ②郵便振替:00840=3=91146
加入者名/いぶきファミリー
 - ③直接窓口:いぶき福祉会
ねこの約束(JR岐阜駅)



▲クレジット決済窓口

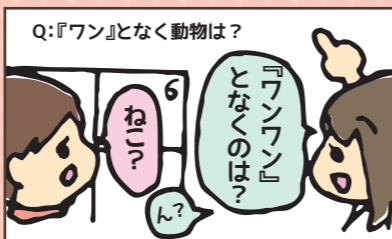
お問合せ いぶきファミリー事務局
TEL 058-233-7445 FAX 058-232-9140
E-mail: ibuki.m@ibuki-komado.com
(タイトルに賛助会員と入れて下さい)

編集後記 林守男

先般放送された24時間テレビでは、あいも変わらずハンデに負けず努力し頑張った障害者がクローズアップされている。「感動をありがとう」「逆に勇気をもらいました」とスタッフが称賛する。番組に出演している方々に限らず、生まれつきの障害を持つ方は例外なく、この世に生を受けてから、十分に苦しみ我慢を重ね頑張ってきたのである。菅新内閣が発足した。開口一番「自助・共助・公助」とスローガンが発せられた。我慢を重ね、頑張った人が報われる社会。それはそれで一理あるが、そんなに我慢しなくても頑張らなくても、すべての国民がある程度幸せに、また豊かに暮らしていくことができる社会を目指していくのも政治の役割なのではないかと思う。

いぶき日和

題:クロスロードパズル 第4号
作:モリモト 絵:ムラハラ



英語もバッチリなあさみさんでした。

夢よもっとひろがれ



10 2020 月号
Autumn
vol.204

発行・編集
いぶきファミリー
(旧いぶき福祉会後援会)

F502-0907
岐阜市島新町5番9号
TEL.058-233-7445
FAX.058-232-9140
ibuki.m@ibuki-komado.com

25th anniversary

もくじ

- 2 バストラルいぶきオープンから半年
- 3 BCP研修会報告
- 4 わたしと息子といぶきと
- 5 連載:心のバリアフリーナビゲーター
恩田聖敬が愛を語る
- 6-9 特集:いぶきの農業のあゆみ
- 10-11 仲間のすがた
- 12-13 「GIFU HAPPY-HAPPY PROJECT」
- 14 いぶき寄り添いひろがるプロジェクト
- 15 クラウドファンディングお礼
- 16 情報掲示板
4コマまんが・編集後記

まるで紙芝居をめくるように夏が終わって秋になりました。美味しいもの、出かけた先が次から次と頭にかかびます。日本の秋っていいもんだなあとつぶやきながら、心が弾む本当の理由に気がつきました。やっとな人と会えるかな。たくさんおしゃべりできるかな。並んで散歩できるかな。誰かと一緒に味わう時間が、季節折々の醍醐味なんですね。おいしいね、たのしいね。そんなコトバがたくさんいきかう秋になりますように。

パストラルいぶき新棟の名前が決定しました

パストラルいぶき 藤井 美和

2020年4月たくさんの人に応援いただき建設されたパストラル新棟が無事にオープンしました。3月に建物が完成すると、新しい電化製品や家具が次々に届き、これから始まる新しい生活にワクワクした気持ちでいっぱいでした。入居が決まった仲間のご父兄からも家具を搬入しながら、期待と不安の入り混じった複雑な様子うかがえました。何人かのお母さんに「娘を嫁に出す気持ちです」と言われました。その言葉に私は、姑になった気持ち…とは言いませんが、やはり身の引き締まる思いで話を聞いていました。



「ただいま～」と元気な声とともに帰宅、一気に賑わいます

4月いよいよ生活がスタートすると、新しく入居した仲間たち、パストラルに配属されたスタッフも、楽しみよりも緊張と不安でいっぱいになりました。実際に生活してみると足りないものが出てきたり、事前に考えていた通りに物事が進まなかったり…。そんなドタバタとした毎日の中でも、仲間たちは大きく体調を崩すようなこともなく生活ができてい



おやつはみんなのお楽しみ。



夕食はみんな揃って「いただきます」

ました。私は、もっとみんながご飯ものを通らず、不安で部屋に入ることができず、すぐに体調を崩すのではないかと予想していたのです。ご父兄も同じ気持ちだったようで、「いつ電話がかかってきても直ぐに迎えに行けるようにしています」と話されていました。そん



たくさんのご支援をいただき無事に完成しました

な職員、ご父兄の心配を見事に裏切るかのように、仲間たちは日に日にパストラルでの生活になじんでいきました。4月当初は、不安な様子で、布団に入っても目をパッチリ開け、眠れない日々が続いていた土田さんですが、今では誰よりも早く就寝できるようになりました。また、時折笑顔も見せてくれるようになり、みんなと一緒に過ごすリビングでも穏やかな表情ですごしています。そして、夜暗くなると灯りを求めてリビングに出てきていた竹内さんですが、今では眠くなると自分から自室に向かいます。自室のCDラジカセが止まると、部屋から出て



洗濯干しも一緒にしています

きて職員を呼びに来ることもあります。みんなが生活に慣れるのには、早くても半年、いや、一年はかかると思っていました。でも、みんな私たちが思っている以上にこのような新しい生活、出来事も乗り越えていく力があるのだと驚かされました。

5か月がたった今ではそれぞれに生活ペースができてきました。生活も落ち着き「そろそろこの棟にも名前が欲しい」という声を聞くようになりました。そこで、仲間とその職員からアイデアを募集し、そこから厳選された名前の中から再び投票してもらうことにしました。たくさん素敵な候補がありましたが、みんなで決めた名前は、1階『こまち』、2階『つばさ』となりました。パストラルに加わった新しい二つのグループの誕生と、ここで生活する仲間たちのことをどうぞこれからも暖かく見守っていただければと思います。



BCP職員研修会報告

いぶき 原 哲治

9月26日(土)北東部コミュニティセンターで「BCP職員研修会」を実施しました。「BCP」とは、事業継続計画(Business Continuity Planning)のことを表し、施設などが災害などで被害を受けても、重要業務を中断せず、事業の継続あるいは早期復旧を可能とするために、平常時に行うべき活動や緊急時における事業継続のための方法、手段などを取り決めておく計画のことです。



一人ひとりが防災についての意識を持てるよう学びました

研修テーマを「防災、減災の必要性を学び、自分事化する」としました。職員一人ひとりが災害が起きた時のリスクや対策を学びながら、福祉施設職員として防災の意識を持ち、災害に備え、法人としてよりしっかりとした事業継続計画を作っていくための研修です。今回の研修にあたり、岐阜大学高等研究院地域減災研究センターの高木朗義氏にご協力いただき、「減災教室」という防災意識を確認する質問形式のアプリを使用し、日頃の防災意識を確認しました。講師は、NPO法人高齢者住まいる研究会の理事長寺西貞昭氏、小林睦氏におねがいしました。



寺西氏は熊本県からのリモートで、小林氏には、直接会場に来ていただく形での開催になりました。

まず事前に集めた「減災教室」の質問

の結果を一人ひとりが振り返り、日常の防災意識の確認とできていないことへの対応について考えました。そして、グループワークで「防災神経衰弱ゲーム」を使い、楽しみながら防災に必要な知識について学びました。その後は、「災害想定シミュレーション」をしました。断水・停電などの状況で支援の現場でどのような問題が起きるかの想定、事前にできる備えについて考えました。



ゲームをしながら楽しくグループワークをしました

最後は、寺西氏より熊本県の福祉施設での災害支援、災害時でも支援を継続していくための対策について、支援の経験をふまえた貴重なお話をいただきました。災害は、いつどんな形で起こるかわかりません。障害のある人たちの暮らしと命を守るために、日頃から災害が起きた場合の想定をし、そのための対策をしっかりとおかなければならないことを改めて感じました。今回の研修を法人としてよりしっかりとした事業継続計画づくりに生かしていきたいと思ひます。



シリーズ わたしと息子といぶきと

松原 光伸

楓太が生まれて来年のお正月過ぎには20年になります。本当にあっという間という感じです。まだまだ幼い楓太で…、もう“大人”として向き合なくてはならない年齢となりますが、つつい甘やかしてしまいがちな僕は、妻や娘たち(高2、中2)から、『甘すぎる!それじゃまるで“接待係”笑!』とダメ出しされてしまう日々です。



4歳ごろ。幼稚園のプールで。

合併症を多く抱えて生まれてきた楓太は、腸や心臓の手術で生後2日目から1歳過ぎまでに4度の手術を乗り越えて

きました。オペ後に体調を著しく崩し、何週間も続く絶食でガリガリにやせ細ってしまった姿でベッドに縛り付けられている息子をただ見つめるしかなかった頃の僕には、お風呂上りに自分と僕のお腹をふざけて叩きながら、『わ〜!!おなかプルプルや〜うんどうしなきゃアカン!』と笑う今の姿など到底想像できませんでした。

妻曰く、僕は“楽天的すぎる”らしく…、待望の息子誕生がただ嬉しくて、主治医から我が子の障がい(隣で妻は、まるでこの世の終わりの様に打ちひしがれていました)、「何をそんなに落ち込んでいるんだ!?生きてりゃいいじゃないか」くらいにしか感じませんでした。疾患や“ダウン症”についても、当時の僕にはほとんど知識が無かったからかもしれませんが…今でも元気で、毎日ご飯をもりもり食べて、ぐっすり眠ってくれたらそれでいい…という思いには変わりありません。

幼いうちは体調を崩して救急外来に駆け込むことも日常茶飯事でした。療育施設や学校の同級生の中でも知的や身体的な面での成長はかなり遅く…というか、最後尾で何とかついていく…ということも多

かったと思います。療養についても育て方についても妻はずいぶん悩んでいた様ですが、僕は、『“できない”ことは決して悪いことじゃない』と思ってきました。周りの人に助けをもらいながら、それにきちんと感謝しながら、笑って生活してくれたら、それで充分だと思ってきました(やはり甘いのかな)

幸い、いぶきに就労してからは、毎日「おしごと、がんばる!…お弁当、楽しみ!〇〇さん大好き!」と言いながらハツラツとして通わせて頂いています。毎日小走りはいぶきの玄関先に向かう後ろ姿を見ると、“ああ楓太のことを温かく迎え入れてくださっているんだな”と

いうことが伝わってきます。本当にありがたい限りです。

とはいえ、スムーズに切り替えができなかったりストライキを起したり、一方的な弾丸トークで困らせたりetc. と、きっと職員の皆様には日々ご面倒をおかけしていることと思います。この場を借りて心からお礼を申し上げます。

これからもきっと楓太には甘々な僕は変わらないと思いますが、彼が自分の人生を心から楽しんで欲しいと願い、そのために親としてできることを細々と続けて行こうと思っています(願わくば、“接待係”から“頼れる上司”への昇格を目指して!!)



今年の4月。同期の2人と



中学生ごろ。鈴鹿サーキットにて。

心のバリアフリー ナビゲーター 恩田聖敬が

おんだ さとし

愛を語る!



vol.4 育成愛

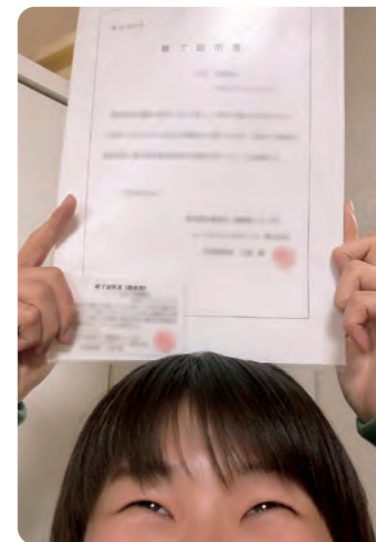
『学生ヘルパー』

私は現在、現役の学生のヘルパー育成に取り組んでいます。全国の慢性的なヘルパー不足を打破するには、この策しかないと思ったからです。医療・介護・福祉系の学生にとって、リアルな在宅医療の現場を経験することは必ず視野を広げることに繋がります。加えて実際に在宅医療に関わる医療従事者と直接接点を持つことができることも大きなメリットだと思います。



自宅で看護師立ち会いで清拭の研修

患者にとっても、学生は若さ故に物怖じしない積極性があり覚えが早いです。さらには拡散力もあるので、1人育てれば友人や先輩後輩の関係などで継続して『学生ヘルパー』候補が現れる可能性が高いです。このように『学生ヘルパー』は学生と患者にとってWIN-WINの関係と考えられます。しかしながらひとつ忘れてはいけないことがあります。それは学生を守ることです。われわれ人工呼吸器をつけた重度障害者のヘルパーをするということは、すなわち『命を預かる・預ける』関係となることを意味します。よってケアの結果何が起きても一切学生の責任は問わないという同意書を学生及び学生の親



ヘルパー(重度訪問介護)の資格を取って大喜び

御さんと取り交わしています。もちろん妻も同意しています。我々は相応の覚悟を持って学生ヘルパーを育てています。何人も学生ヘルパーを育て上げた私の師匠的ALS患者曰く、「学生を我が子のように思って育てなければ、一人前にはならない」とのことです。その通りだと思います。私はこの言葉を胸に刻み学生と接し、今年の7月に正式に学生ヘルパー1号が誕生しました。彼女は私の高校の後輩でもあり、100人に1人の逸材です。また彼女の拡散によって、次の学生ヘルパー候補が続々と手をあげてくれています。そんな彼女がヘルパーとしての初任給で私にプレゼントをくれたのです。42歳の私と20歳の彼女との関係ですが、私の『親』としての育成愛が伝わった証だと勝手に思っています。私は本当に人に恵まれています。

初任給でのプレゼント。私が自分では絶対買わない物を選んだそうです(^_^)



初任給でのプレゼント。私が自分では絶対買わない物を選んだそうです(^_^)

いぶきの農業のあゆみ

いぶき 森山 めぐみ

茶畑との出会い

8年前、第二いぶきからいぶきに異動となりました。任務は新しい仕事を立ち上げることでした。そのころいぶきでは紙袋組立ての内職仕事をしていました。仕事量は少なくみんなで分け合っ、仲間たちは細かいチェックをされて時間をかけて丁寧にしていました。視力に障害のある早田さんは、目を近づけて失敗の無いように緊張して仕事をしていたので、農業になって良かったと後で振り返っています。



耕作放棄されていた荒れた茶畑を三年番茶の茶畑にしました

仲間が生き生きと活動でき給料アップにもつながる新しい仕事を立ち上げる必要がありました。食品も考えましたが、衛生面で難しそうでした。体力的には動くことのできる仲間が多く農業ができるのではと考えていました。



三年番茶は冬に枝ごと収穫します

そんな折、お茶が伸びているけど摘みに来ないかと誘いを受け、担当職員の佐藤健太郎さんと仲間が出かけていきました。そこで仲間たちはお茶を摘むことができ、茶畑のおばあさんに宮脇さんは自分たちと同じように水分補給のお茶を届けたのです。まだ、お金にはならないけど社会とつながる手ごたえを感じ、まず外へ出ることにしました。

それから、いぶきで製造している『大地のかりんとう』のつながり、春日の傳六茶園さんにつながり、紅茶の作り方も教えていただいたり、奈良の青葉仁会さんに見学に行き、健一自然農園さんともご縁をいただきました。スタッフの佐藤さんと勉強とつながり作りにあちこちに出かけました。傳六さんから誘われて秋番茶のはさみ刈りも地域のおばあさんたちに教えていただきながら習得できました。傳六さんの茶畑に藁を敷いていく仕事は仲間と共に参加させていただき、今から思えばたいした坂ではないのですが仲間たちはうまく歩け



一芯二葉の茶摘みを覚えました



岐阜のマチュピチュと呼ばれる茶園の風景



絶景ポイント、自然栽培パーティの家紋入りTシャツで

せんでした。今はあの急な坂道をみんなたくましく荷物を持って歩いています。

そして傳六さんの紹介で春日の森敏実さんから茶畑を貸していただけることになりました。

古くからお茶の栽培をされている揖斐川町春日の上ヶ流(かみがれ)地区には、標高300メートルほどの場所に茶畑が広がっています。

しばらく放置された荒れた茶畑でしたが、そこをきれいにする事で地域とつながっていき、仲間たちも思いっきり茶摘みができるとてもうれしそうでした。坂は急で荒れていた茶畑を地域の方たちにも助けられ開墾しました。その後みんなで草を引き、現在ではとてもきれいになっています。最初仲間たちは草もお茶の葉も

区別が付きませんでした。草を引こうと言うと茶の葉っぱをむしる人もいました。また、数種類ある草を教えるのは難しく、どれをひいていいかわからないので、一日一種類ずつ教え、一本引くたびにありがとうございますと伝えました。今はしっかり見分けて上手に草を引いています。

地主の森敏実さんにはその時からずっとご指導いただいています。毎日短時間でも茶畑の手入れをし、父親の会にも助けてもらいました。その姿を見て地域の方より茶畑の手入れを頼みたいという方の間を森さんがとりもってくださり、現在は煎茶畑3反、三年番茶の畑3反にまで増えています。仲間たちはいつのまにか一芯二葉で茶摘みができるようになり、紅茶も二時間かけてとても美味しくもめるようになっています。



はじめの頃の茶もみ

農業をはじめのきっかけ

いぶきに異動して2年目、農業チームにはスタッフの加藤亮太さんが加わりました。農業の立ち上げはその二人のスタッフの佐藤さんと加藤さんが「やりたい」という強い思いがあり、私はそれをバックアップしたにすぎません。一旦市場に畑を借りることができ、最初は牛糞や石灰を入れて手で耕し始めました。肥料もたい肥も結構高いのです。そんな折、知多で佐伯康人さんの講演会がありました。その時はまったく佐伯さんのことは知らずに「百姓には百の仕事がある。一人一芸をめざして」という題に引かれて参加しました。講演の数日前にNHKのEテレで自然栽培をしている佐伯さんの施設が紹介されました。いぶきでは自然栽培で三年番茶が始まり、そのスッキリした味に魅了されていたのですが、知多のその集会で自然栽培のいちごをいただいたのです。なんというおいしいこと。喉が抵抗せずすーっと入っていききました。それから佐伯さんの師匠の木村秋則さんの「奇跡のりんご」を読み、これをやろうと思いました。肥料を与えられない作物は自分で根を伸ばして肥料を取り込もうとします。それがなぜか仲間への支援とつながっていると思いました。



田植え後すぐにチェーン除草機をかけます

加藤さんは自然栽培のことを別の本で知ってやりたかったそうです。すぐに愛媛に加藤さんに研修に行ってもらいました。ちょうど自然栽培をやろうとしていた豊田の無門福祉会さんともつながり、年度が変わった5月には自然栽培パーティの第一回のフォーラムにも仲間と共に参加していました。



やりたいなと思っていたら、田んぼや畑がうまい具合に集まってくるのです。畑や田んぼの仲間の姿はそれはたくましいです。黒マルチを貼るときは、マルチのロールに棒を通して二人で持って引いていきます。後から左右に分かれた仲間がマルチおさえを挿していきます。マルチ押さえをかごに入れて持ってくる人もいます。30メートルのマルチがあっという間にきれいに張られます。苗を植えるのも、マルチに穴を等間隔に測って開ける



二毛作で作る玉ねぎの植え付け

人、土を掘る人、植える人、土をかぶせる人、苗を運ぶ人とみんなで手分けして協力して行います。狭い室内ではお互い気になってトラブルになりがちですが、広い屋外で無心に土に向かっているとなぜか心が落ち着くようです。種を植え、芽が出て、草を引き、実がなり収穫と言う一連の流れが身体で分かっているのでみんな作物を大事にします。「畝を踏まない。作物を踏まない」とあんなに注意したのがうそのようです。お茶はねこの約束やIBUKI style、お野菜はモレラ

岐阜のona-casuitaで購入できます。毎週職員、保護者向けには注文書を配って採れたてのお野菜をお届けしています。お米はコトネのお米セットや、車いすバスケット天皇杯や皇后杯の副賞に出し仲間と応援にも行きました。体にも環境にもやさしい自然栽培を仲間とともに地域に広げていきたいと思っています。



車いすバスケット天皇杯の優勝チーム副賞にいぶき米をプレゼント



※自然栽培パーティとは
障害者が自然栽培に取り組み、田んぼや畑にでて、たのしくはたらく。地域の農家の人に助けてもらったり、さまざまな人の目にふれて、自然に地域とのつながりが生まれます。
自然栽培パーティは、そのような障害者による自然栽培の農業を全国に広げていく活動です。

いぶきのお茶やお酒をインターネットでご購入いただけます。



【ポケットマルシェ】

<https://poke-m.com/>→いぶき福祉会で検索！

通信欄に、『夢よひろがれ見たよ』とお書きください。

#元気いただきますプロジェクトとして農林水産省による生産者支援事業の対象商品は送料無料です。



自然栽培 三年熟成番茶 **送料無料**

三年以上育った茶葉や枝、幹を冬に収穫して薪火でじっくりと煎りあげています。枝や葉が持つ力や旨みをギュッと凝縮したような滋味深い味わい。

1,296円～



粉茶 ほうじ茶と煎茶セット **送料無料**

農業不使用の茶葉を丸ごと微粉砕しました。牛乳に混ぜてラテ風にしたたり、お菓子作りにも最適。煎茶は塩と混ぜて、揚げ物にかけたり、ご飯に混ぜるのもおいしいです。

各1袋 1,296円



にごり酒 いぶき 600ml

いぶきの新米を愛媛県の酒造会社で醸造しました。稲葉神社(岐阜市)の土から取り出した酵母を使用。精米具合は90%。自然栽培ならではのうまみを残しています。酵母が生きているため、開栓時に吹きこぼれることがあります。

1本 2,310円 お酒は20歳から。

仲間のすがた

吉田 光佑さん

よしだ こうすけ

第二いぶき 池戸 建太

『困った』も『嬉しい』も『楽しい』も一緒に

吉田光佑さんは、第二いぶきに通り始めて今年で7年目になる仲間です。毎日、元気な笑顔で出勤してくる吉田さん。いぶきに通うことをとても楽しみにしているようです。吉田さんは、草木染め中心に活動するグループ「いろどり」の一員で、染料となる草花を細かくする仕事を担当しています。染料を細かくする仲間たちは、葉っぱや茎を豪快にちぎっては部屋の色々な所へ投げて、楽しく仕事をしているので、仕事が終わると部屋の中が草花でいっぱいになります。



硬い植物も力いっぱいちぎっていきます

そんな中で吉田さんは、「あんな所まで飛んでいったね」、「力いっぱいちぎれたね」といったやりとりに大きな笑い声で応えてくれます。

昨年度、第二いぶきの中でグループの大きな再編成がありました。吉田さんも活動する部屋が替わることになりましたが、大好きな仲間も一緒だったこともあって



染料になる植物のたくさん入った袋を運んでくれました

か、4月当初は大きな戸惑いもなくスタートすることができました。しかし、ある時から、特定の職員の介助時に「イヤだ」と身体を強張らせるようになりました。これまでも、新しい職員とトイレにいけるようになるまでに時間がかかるということはありませんでした。しかし、この時のように、『それまでずっと一緒にいけることができていた職員と急にいけなくなる』ということはありませんでした。時間になって、「トイレにいきますか?」と誘うと、仕事を終わりにしてトイレに向かうことはできました。しかし、トイレの個室に入ると、身体に力を入れて、数十分トイレから動けなくなっていました。「トイレにいきたくない」わけではなかったようで、介助を別の職員と交代してみると、すっと便座に移ってトイレを済ませていました。『介助の方法が他の職員と違うのではないかと、吉田さんとも一緒に改めて支援内容を振り返って見ましたが、大きな違いを確認することができませんでした。また、その職



ゴミを捨てに行くこともできるようになりました

員を「イヤだ」と言うのもトイレだけでした。一緒に仕事をするのも、食事介助も、2人で散歩に出かけることも、昼休みといった何気ない時間を楽しく過ごすこともできていたのです。なかなか吉田さんの思いを汲み取り切れない中でしたが、「誰とトイレに行く?」、「今日は誰と仕事する?」と吉田さんの思いを見通しを確認しながら、「また一緒にトイレにいけると嬉しいな」と職員の思いを伝えながらすごしました。そして、トイレに行くことができた時には、「また、いこうね。」と一緒にいけることができて嬉しかったことを伝えるようにしました。こうした拒否は、長い時には一か月以上続いたり、一度行けるようになって、また行けなくなることを繰り返したりしました。その度に、吉田さんの思いを汲み取りながら、職員の思いを伝え、「嬉しい」を伝えていくことで、少しずつ拒否が短い期間で終われるようになっていきました。今では、トイレの話をする笑顔で応えてくれるようになっています。染料をちぎる仕事、片付けや掃除、ゴミ捨て、ドライブや散歩、音楽療法に紙芝居など、吉田さんには大好きなことがたくさんあります。その中で、素敵な笑顔を見せてくれたり、大きな笑い声を響かせてくれたりします。

一方で、今回のトイレ介助のように、周囲の職員に上手く思いが伝わらず、困ってしまうことがあります。そんな『困ってしまう』といったことは、これからの吉田さんの人生の中で、新しい出会いや経験があるたびに、起こりえることでしょう。しかし、そうして『困ってしまった』時に、吉田さんの気持ちに寄り添いながら一緒に過ごしていくことで、吉田さんにとって新しい『楽しい、嬉しい、大好き』が増えていくと思います。『楽しい、嬉しい、大好き』と思える新たな活動や仕事、仲間や職員が増えていくことは、吉田さんの世界や選択肢が広がっていき、吉田さんの人生をさらに充実したものにしていけるでしょう。もし、『困ってしまう』ことが起きても、たくさん増えた『楽しい、嬉しい、大好き』なことを通して乗り越えていくことができると思います。これからも、そんな経験を吉田さんや仲間や職員みんなで積み重ねていきたいと思っています。



外での活動は楽しく笑顔で

いぶきの小窓から 《第13回アトリエポンサート》

第二いぶきのアトリエのメンバーで、今年の4月から始まった「コロナに負けるな!アトリエポンサート」が13回目の開催となりました。回を重ねるごとに、パワーアップし大変盛り上がっています。



高橋さんと土本さんの演奏に聞き入っています。



仲間たちも楽器にふれて音を出してみます。少し緊張しながらもワクワク感が伝わります。



テーブルベルで、秋にふさわしく「虫の声」。演奏したあとの達成感が、いいんです。

GIFU HAPPY-HAPPY PROJECT

～ポストコロナ社会を「ありがとう」があふれる時代に～

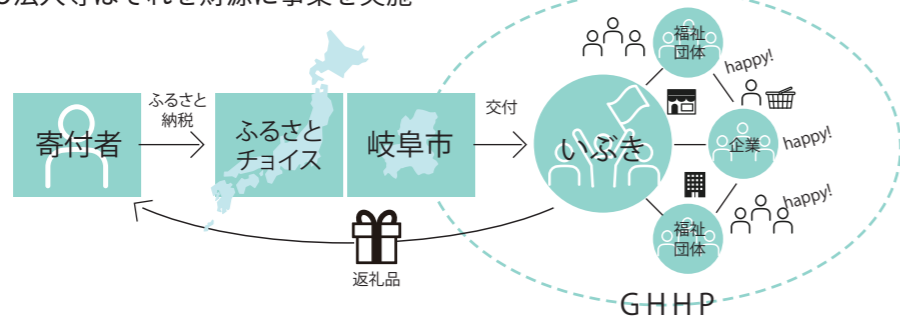
法人本部 北川 雄史



岐阜市で新しくはじまった「クラウドファンディング型ふるさと納税を活用したNPO法人等応援事業」で、いぶき福祉会が提案した『福祉団体と事業者による寄付つき商品開発プロジェクト「GIFU HAPPY-HAPPY PROJECT」』を含めて4件が採択されました。

事業の流れ

- ①岐阜市が地域社会の課題解決につながる事業を市内の非営利団体から公募
- ②ふるさと納税サイト「ふるさとチョイス・ガバメントクラウドファンディング」において、岐阜市がよびかけ
- ③岐阜市は、集まった寄付を、事業提案で採択されたNPO法人等に交付
- ④NPO法人等はそれを財源に事業を実施



「寄付つき商品」をご存知ですか？

赤い羽根共同募金が全国各地で展開する「募金百貨店プロジェクト」という活動があります。地域社会に貢献したい企業や団体を募集して、商品やサービスを「寄付つき商品」として共同企画販売します。売上の一部が寄付されます。購入者の負担はなく、企業にとってもイメージアップや販売促進、社会貢献ができるWin-Winの関係構築を図るものとして注目されています。

目新しいことのように見えますが、実はいぶき福祉会では実績があります。パストラルいぶきの寄付集めでは、FC岐阜さんがいぶき応援オリジナルタオルマフラー200本を企画販売。売上げの約半分が寄付に

なりました。また、人を幸せにする家具を提案し続けておられるインテリアショップのLIMESさん(墨俣町、モレラ岐阜)は、アルブリズムというブランド家具の売上げの一部を寄付して下さることになりました。新年から始まるベッカライ・フジムラさん(美濃加茂市)といぶき福祉会共催のパン教室の参加費は、全額いぶきに寄付されるほか、いぶき応援新商品も登場します。



FC岐阜×いぶきタオルマフラー

<ライムデザインスクエア>
〒503-0105 岐阜県大垣市墨俣町ニツ木209
すべての人々の暮らしを心地よくし、
人生を豊かにする



<ベッカライ フジムラ>
〒505-0005 岐阜県美濃加茂市蜂屋町中蜂屋4430

いつもの生活を、ほんの少し豊かにしたい。
おいしいライ麦パンと食事の提案。



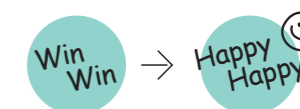
<FC GIFU>
TEL058-231-6811



「GIFU HAPPY-HAPPY PROJECT」

今回のプロジェクトでは、その「寄付つき商品」を新型コロナウイルスの影響を受けた岐阜市内の福祉団体と企業で協力して考え、市民や企業が気軽に福祉団体を応援できるしくみを作ります。その費用を、岐阜市がクラウドファンディングで集め、いぶきに交付。支援金(寄付)がふるさと納税の対象となるため、より幅広い方々に参加協力をお願いしやすくなります。岐阜市も初めての挑戦。そしていぶきにとっても、他の法人や企業と一緒に、安心・安全で誰もが暮らしやすい寛容な地域づくりに取り組む絶好の機会

になります。日頃から、いぶきの応援はしてほしいけれど、いぶきだけのための活動では地域づくりにはならないなあとと思います。それから、「勝ち組を目指す」Win-Winという表現は私たちにはどうもそぐわない。だからWin-WinではなくHappy-Happyという言葉の方がほっとします。おたがいさま、ありがとう。そんな関係がひろがることを願い、この活動を「GIFU HAPPY-HAPPY PROJECT」と呼ぶことにしました。



ふるさと納税にもなる寄付受付は大晦日まで

クラウドファンディングは、10月3日(土)から始まりました。期間は12月31日までの90日間。目標支援総額は700万円です。これまでと大きく異なるのは、支援金がふるさと納税となり、なおかつ返礼品があるということ。返礼品には、いぶき福祉会の商品と、第二いぶきの近くにある酒蔵・白木恒助商店の古酒が並んでいます。ぜひサイトをのぞいてみてください。ご協力とご支援、ご友人へのお声かけもお願いできれば幸いです。



※ふるさとチョイス【ガバメントクラウドファンディング】のサイト内でご利用ください。

●返礼品の一例



百々染シルクストール



遠磨正宗 熟成古酒 飲み比べお試しセット

【ふるさとチョイス】
ガバメントクラウド
ファンディング

<https://www.furusato-tax.jp/gcf/1039>



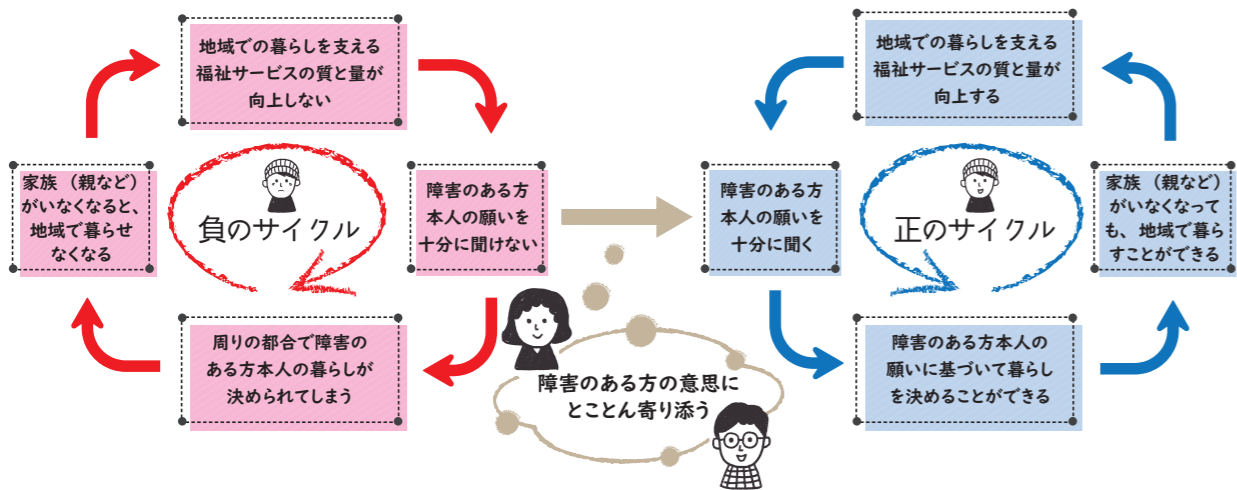
いぶき
寄り添いひろがるプロジェクト
 ≪マンスリーサポーター≫
 いぶき事業部長 森 洋三

8月から9月にかけてキャンペーンを実施して支援者を募集したところ22名の方にご支援いただきました。このプロジェクトは仲間が自分で決めた暮らしが実現できるように、本人にとことん寄り添うことを大切にしています。

今、なぜこの取り組みが必要なのか。
 いぶきでは昨年、多くの方にご支援いただいてパストラル2期の寄付活動を実施してこの4月から10床のグループホームと2床のショートステイをスタートさせました。長年一緒に暮らしていた親御さんの元を離れどんな生活が始まるか、仲間たちも、私たちもとてもドキドキしていました。多少の戸惑いはあるものの、いまリビングでのんびりとくつろぐ仲間たちの姿をみると「ああ、パストラルに来てくれてよかったなあ」と思っています。
 一方でいぶきの仲間は現在151人いて、ホームで生活している人は現在39名です。すべての仲間にホームが必要というわけではありませんが、グループホームのニーズ

は非常に高いです。保護者会があるごとに必ず次のホームはいつかと質問を受けます。ホームの整備は最大限努力をしていますが、運営上の困難さから、なかなか数が増やして行けていないのも現実で、いつも申し訳ない気持ちになっています。そして、在宅生活を一手に支えているお母さんが体調不良で仲間の介助ができなくなることが毎年のようにあります。一時的なこともありますし、長期的なこともあります。ご家族でどこまでお願いできるか相談し、日中サービスで最大限受け入れを検討し、ショートステイ、ヘルパーなどをやりくりして法人内外の調整に走り回ります。正直、上手く手配できることもありますし、上手くいかないこともあります。

障害のある人自身の意思と一緒に向かうこと。そんな時、わたしには、仲間自身の気持ちが後回しになってしまう罪悪感があります。もちろん仲間にきちんと説明をしますがそれは説明であることが多く、周りの事情に振り回されてしまうことが多いです。緊急事態は突然やってきて、その時の事情が大きく優先されてしまいます。その時に気持ちを聞くことは難しいので、せめて、事前に少しでも本人を中心に将来の話をしておけば違うのではないかと思っています。いぶき寄り添いひろがるプロジェクトは仲間の意思決定について寄り添っていきたいという願いが込められています。詳細はホームページでご案内しておりますので是非ご覧いただけると幸いです。



税制優遇も目指して

今年度は100名の方から30万円の寄付を集めることを目標としています。この目標（3000円以上100名）を5年間継続できるといぶき福祉会への寄付は税制優遇（税額控除）の対象となります。月500円から参加できます。ぜひこの活動を応援していただけますと幸いです。

クラウドファンディングにチャレンジしました！
 たくさんのご支援いただきありがとうございます。

いぶきでは新型コロナの影響で販売機会が激減し、仲間の仕事が危機的状況になったため、7月から9月にかけて2件のクラウドファンディングで呼びかけを行い、たくさんの方々にご支援いただきました。
 コロナ禍の不安の中で苦しいときに、こんなにもたくさんの方々に応援していただき、本当にありがとうございました。そして、期間中は毎日のように「がんばってね」や「支援させてもらったよ」と直接励まされ、心強い日々でした。コロナ禍はまだまだ続きそうですが、支えられていることを感じながら前を向いて過ごしていけそうです。いただきましたご縁を大切に今後とも頑張っていきたいと思っております。本当にありがとうございました。

1 いぶき『かりんとう応援プロジェクト』

目標達成

新型コロナの流行とともに徐々に受注量がへり、緊急事態宣言中は、ねこの約束や取扱店が休業を余儀なくされ、かりんとうの売上げが激減し5月中は製造ラインもストップしてしまいました。この間、5月末現在で200万円ほどの収入減少と直売店だけでも300人ほどのお客様とのつながりが失われました。減収とともに、つながりを取り戻したいと7月4日から8月2日にかけて、商品を購入いただくことでご支援を呼びかけました。

●支援者数:321人 ●支援金額:2,514,280円

2 JAめぐみの『絆のチカラで応援プロジェクト！』
 希少なお茶と幻の大豆を守りたい

目標達成

8月28日～9月29日までの間にJAめぐみのさんがいぶき福祉会を支援するという形のクラウドファンディングが行われました。販売の減少した岐阜県のお茶と大豆の商品を売ることで農家さんの応援と障害のある方の就労支援を実現することが目的です。いぶきは大豆とお茶を使用したマカポンとジャムとかりんとうを開発し、商品をクラウドファンディングのリターンに採用していただきました。

●支援者数:207人 ●支援金額:1,247,500円